

グローバル・アピール 2009
ハンセン病に対する
スティグマ (社会的烙印) と差別をなくすために

GLOBAL APPEAL 2009

ハンセン病は、人類の歴史とともに存在してきた病気です。

この病気は、身体に障害をもたらすことから、人々に恐れられてきました。

効果的な治療法がないまま、患者たちは社会から排斥されてきました。

今は治療薬が存在し、必要な人はだれでも無料で手にいれることができます。

早期に発見され適切な治療を受ければ、痕跡も残さず治癒します。

しかし、病気についての誤った認識は根深く存在しています。

誤った認識が社会的・経済的差別を永続させるのです。

差別は感情的、心理的な苦しみをもたらします。

長い年月にわたって存在してきたスティグマを克服するには、治療薬だけでは十分ではありません。

社会が癒しをもたらさねばなりません。

ハンセン病患者・回復者、そしてその家族には、普通の生活を送る権利があります。

病気を理由に人がもつ基本的な権利を否定することは決して許されないのです。

この社会に存在する、ハンセン病に対するいわれのない恐れ、偏見、社会的差別をなくすために、ともに歩みましょう。

今日が、その歩みの始まりとなるのです。



イラク・イスラーム
最高評議会副議長
アマール・A・アルハキム



ロシア正教会大主教
イストリンスキー・
アルセニー



シュリ・シタラム・
セバ・トラスト
モラリ・バプジ



バチカン保健従事者
協議会議長
ハビエル・ロザノ・
バラガン



ダライ・ラマ 14 世



ウエストミンスター寺院
首席司祭
ジョン・ロバート・
ホール



世界宗教者平和会議名誉
会長
ハッサン・ビン・タラール・
ヨルダン・ハシェミット
王国王子



世界教会協議会事務総長
サミュエル・コピア



欧州医療礼拝所ネットワーク
代表/コンスタンディヌー
ポリ総主教庁
スタボロス・コフィナス



全日本仏教会会長
松長 有慶



イスラエル主席ラビ
ヨナ・メッガー



マニラ大司教
ガウデンシオ・ボルボン・
ロサレス



先住民祖先霊評議会会長
ビートリッツ・シュルテス



インドネシア・イスラーム
伝道師評議会議長
K. H. サハル・マフズ



カンボジア王国大導師
テップ・ポーン



テアテイラ・英国大司教
グレゴリオス・テオカロス



南アフリカ聖公会
ケープ・タウン大主教
デズモンド・ツツ



日本財団会長/WHO
ハンセン病制圧特別大使
笹川 陽平